

1. 日本側参加研究者の体制

| | | | | | | | | |
|---|----------------------|----|--------------------------------|---|----------------------|---------------------|---|---|
| ①採択年度（和暦） | 平成31 2019 | 年度 | ②採択期間 （通常A型は5年 間、B型は3年間） | 3 | 年間 （1年未満は 切上げ） | ③事業の型 （AまたはBを記入） | B | 型 |
| ④日本側拠点機関名（和文） | 東京大学 | | | | | | | |
| ⑤コーディネーター部局名・ 職名・氏名（和文） | 未来ビジョン研究センター・教授・福士謙介 | | | | | | | |
| ⑥日本側協力機関名（和文）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | | | | | | | |
| 山形大学 | | | | | | | | |
| 愛媛大学 | | | | | | | | |

| ⑦参加研究者数内訳 （重複カウントしないこと） | 教授級 以上 | 助教・ 准教授等 | ポスドク等 若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の 参加資格のない者 | 合計 | 第三国所属の研究者 （内数） |
|----------------------------|-----------|-------------|----------------|------|----------------------|----|-------------------|
| 拠点機関 | 4 | 3 | 2 | 2 | | 11 | |
| 協力機関・協力研究者 | 5 | 6 | 1 | 9 | | 21 | |
| 合計 | 9 | 9 | 3 | 11 | 0 | 32 | 0 |

| ⑧手引2-4記載の参加資格のない者の内訳（適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | |
|---|------|----------|
| 所属・職 | 専門分野 | 研究交流での役割 |
| 該当なし | | |

| ⑨「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） | | | |
|--|------|---------------|------------------------------|
| 所属機関所在国・ 所属・職 | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | 日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法 |
| 該当なし | | | |

2. 経費

| 事業の型 B 型 | | | |
|------------------------|---------------------|---------------------------------|--|
| ①当該年度の本事業による経費の支出 | | | |
| 経費内訳 | 金額 (単位:円) | 備考 | |
| 研究 交 流 経 費 | 国内旅費※1 | 222,740 | |
| | 外国旅費※1 | 4,977,009 | |
| | 謝金 | 20,400 | |
| | 備品・消耗品購入費 | 45,241 | |
| | その他経費 | 622,829 | |
| | 不課税取引・非課税取引に係る消費税※2 | 511,781 | |
| | 計 | 6,400,000 | |
| 業務委託手数料 | 640,000 | 研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。 | |
| 合計 | 7,040,000 | | |

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じた対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

| 該当なし | | | |
|--|---|--------------|---|
| ③ 日本側 の 参 加 研 究 者 の 旅 費 | 日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額 (単位:千円) | | 3,882 |
| | 日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額 (単位:千円) | 日本→日本以外の渡航 | 0 |
| | | 日本以外→日本の渡航 | 0 |
| | | 日本以外→日本以外の渡航 | 0 |
| ④ (単 位: 千 円) (B 型 の 参 加 研 究 者 の 旅 費 に よ る 総 額) | 日本または相手国 →日本の渡航 | 1,318 | (左記のうち、 参加研究者の 第三国所属の 相手国側 の総額 (単位:千円未 満切捨て)) |
| | 日本又は相手国 →相手国の渡航 | | |
| | 日本または相手国 →第三国の渡航 | | |
| | 第三国→ 日本の渡航 | | |
| | 第三国→ 相手国の渡航 | | |
| | 第三国→ 第三国の渡航 | | |

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。経路国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤(B型のみ)中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合(交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

| 総額 (単位:千円) | 手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明 |
|------------|----------------------|
| 該当なし | |

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨て)

| 全相手国のマッチングファンド総額 | 相手国拠点機関数 | 相手国拠点機関のマッチングファンド平均 |
|------------------|----------|---------------------|
| 10,639 | 1 | 10,639 |

3. 共同研究・セミナー

| 事業の型 B 型 | | 現在の年度に○を付けること→ | | ○ | | | | |
|---|-------------------------|----------------|--|----------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------|------------------------|
| ①共同研究 (適宜、行を加除すること。) | | | | 1年目 実施年度に ○を付ける ↓ | 2年目 実施年度に ○を付ける ↓ | 3年目 実施年度に ○を付ける ↓ | A型のみ | |
| 共同研究 整理番号 | 共同研究課題名 (和文) | 日本側代表者氏名・所属・職名 | | | | | 4年目 実施年度に○を 付ける↓ | 5年目 実施年度に○を 付ける↓ |
| R 1 | 気候変動による総合的健康リスク対応システム構築 | 福士謙介・東京大学・教授 | | ○ | ○ | ○ | | |
| R 2 | 気候変動による水系感染症リスクモデル構築 | 渡部徹・山形大学・教授 | | ○ | ○ | ○ | | |
| R 3 | 気候変動によるベクター感染症リスクモデル構築 | 渡辺幸三・愛媛大学・教授 | | ○ | ○ | ○ | | |
| 共同研究の実施状況 (当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引6-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。) | | | | | | | | |
| <p>R1:気候変動に係る気象予測、健康リスクの統合化、リスクとステークホルダーのリスクコミュニケーション、政策への反映等の統合的な適応システムの構築を行う。 暑熱環境の解析をベトナムのフエ市およびその周辺地域において、現在、将来に関して実施し、計算結果、計算するために必要なデータの収集と整理を行った。一方、水文観測データの分析によって降雨流出現象を理解するとともに、健康リスク評価およびダウンスケーリング手法を使用した気候変動予測手法を検討することとなった。</p> <p>R2:気候変動と都市域、都市周辺域の洪水モデル、それに伴う水系感染症モデルの高度化を行う ベトナムのフエ市およびその周辺地域における洪水モデルの基礎として、フエ大学 (理学部を中心に) の協力のもとで、過去の降雨量の緻密なデータと洪水発生状況に関する情報を収集し、両者の関係について解析を行った。同じく、洪水時の病原微生物輸送に関する解析 (ソーストラッキング解析) も実施した。水系感染症モデルに関しても、フエ大学 (医学部を中心に) の協力のもとで、これまで主にノロウイルスによる感染症を対象としてきたが、 (とくに乳幼児に対して) 重篤な感染症を引き起こすロタウイルスにも展開できるようにデータ収集を行った。</p> <p>R3:気候変動のベクター感染症のリスクモデルの構築と検証を行う フィリピンのマニラおよびインドネシア全土を対象にして、気候変動に関係する降水量・気温・湿度・洪水強度などの環境変数に基づいてデング熱媒介蚊の個体数やデング熱罹患率 (人口当たりの感染者数) の空間分布や時間変動を説明する機械学習モデルを作成した。また、デング熱感染リスクと媒介蚊の都市内移動パターンに関する基礎的データをマニラにおいて取得した。また、フィリピンおよびインドネシアを対象として、デング熱感染抑制に寄与するためのスマートフォンアプリ開発も両国と共同して開発した。</p> | | | | | | | | |

| ②セミナー (当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。) | | | | |
|---|--|--|--------------------------------|-------------------------------|
| セミナー | セミナー名 (和文) | セミナー名 (英文) | 開催地 (国名・都市名・会場名) | 開催期間 (○年○月○日～○年○月○日、○日間) |
| S 1 | 第1回日本学術振興会研究拠点形成事業「気候変動適応のための健康リスク評価研究拠点の形成」シンポジウム | 1st Symposium of JSPS Core to Core Program "Center of Excellence in Health Risk Assessment for Adaptation to Climate Change" | フィリピン・マニラ・HOTEL BENILDE MAISON | 2019年11月11日～2019年11月12日 (2日間) |
| セミナーの開催状況 (当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数 (総数、参加国名ごとの参加人数 (本事業経費による負担の有無を問わない)、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。) | | | | |
| <p>2019年11月11-12日の2日間にかけて、1st Symposium of JSPS Core to Core Program "Center of Excellence in Health Risk Assessment for Adaptation to Climate Change" (第1回日本学術振興会拠点形成事業「気候変動適応のための健康リスク評価研究拠点の形成」シンポジウム) をフィリピン・マニラのHOTEL BENILDE MAISONにて開催した。日本から12名、フィリピンから28名、インドネシアから5名・ベトナムから5名の4か国から合計50名の研究者および学生が参加して研究発表とディスカッションを行った。第一回となる今回のシンポジウムでは、共通テーマとして気候変動が都市洪水、感染症 (水系感染症、ベクター感染症)、農業・水産業に与える影響の評価やその適応策の提案を設定し、3題の基調講演に続き、4つのセッション (各日2セッション) に分けて22題の口頭発表と、15題のポスター発表が行われた。1日目と2日目の最後の時間帯には、フリーディスカッションの形で基調講演と研究発表に関する振り返りと討議を行い、このシンポジウムを重ねることで議論を深めて将来的に研究論文の総説などにまとめて合同発表する計画などが話し合われた。また、若手の育成を念頭において、主に若手研究者と大学院生を対象としたポスター発表において投票により poster presentation賞を3件選定して閉会式で授与することで、若手の研究へのモチベーションを上げる工夫も行った。閉会式では、次年度の開催地がベトナムのフエであることが全会一致で了承され、次年度の再会を約束して閉会となった。今回初顔合わせとなる研究者同士が多かったため、新たなネットワークを形成するために大変意義あるシンポジウムとなった。</p> <p><参考>シンポジウムの写真などを掲載したブログ https://sites.google.com/a/kw-laboratory.com/main/blog/JSPScoretoCore20191111</p> | | | | |
| ③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況 (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7 (7) 参照のこと。) | | | | |
| 該当なし | | | | |
| ④該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット (セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引4-4 (1) ①参照のこと。) | | | | |
| 該当なし | | | | |

4. 研究交流状況

| 事業の型 B 型 | | | | | | | |
|---|-------|-------------|----------------|------|------------------------------|----|---|
| ①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。) | | | | | | | |
| 国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。 | 教授級以上 | 助教・ 准教授等 | ポスドク等 若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他 | 合計 | うち、31日以上の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3) |
| 1 フィリピン | 3 | 4 | 1 | 6 | | 14 | |
| 計 | 3 | 4 | 1 | 6 | 0 | 14 | |
| 第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | | | | | | | |
| 該当なし | | | | | | | |

| ②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | | | | | | | |
|--|-------|-------------|----------------|------|------------------------------|----|---|
| 国名(派遣元) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。 | 教授級以上 | 助教・ 准教授等 | ポスドク等 若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他 | 合計 | うち、31日以上の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3) |
| 1 該当なし | | | | | | 0 | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | | | | | | | |
| 該当なし | | | | | | | |

| ③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | | | | | | | | |
|---|---------|-------|-------------|----------------|------|------------------------------|----|---|
| 国名(派遣元) | 国名(派遣先) | 教授級以上 | 助教・ 准教授等 | ポスドク等 若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他 | 合計 | うち、31日以上の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4(教授級以上1、大学院生3) |
| 1 ベトナム | フィリピン | | 5 | | | | 5 | |
| 2 インドネシア | フィリピン | | 5 | | | | 5 | |
| 計 | | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 10 | |
| 各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | | | | | | | | |
| いずれの渡航もS1(第1回日本学術振興会研究拠点形成事業「気候変動適応のための健康リスク評価研究拠点の形成」シンポジウム)に出席するため。 | | | | | | | | |

| ④海外→日本の渡航数(相手国側経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | | | | | | |
|--|-------|-------------|----------------|------|--------------------------|----|
| 国名(派遣元) | 教授級以上 | 助教・ 准教授等 | ポスドク等 若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の参加資格のない者・ その他 | 合計 |
| 1 該当なし | | | | | | 0 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| ⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | | | | | | |
|---|-------|-------------|----------------|------|--------------------------|----|
| 国名(派遣先) | 教授級以上 | 助教・ 准教授等 | ポスドク等 若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の参加資格のない者・ その他 | 合計 |
| 1 該当なし | | | | | | 0 |
| 計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

5. 交流相手国

| 事業の型 B 型 | | | | | | | |
|--|--|--------------------------------------|----------------|------|-------------|----|----------------|
| ①相手国名 (和文) | ベトナム | | | | | | |
| ②拠点機関名 (和文および英文) | | | | | | | |
| 和文：フエ大学 英文：HUE University | | | | | | | |
| ③コーディネーター所属 部署局・職名・氏名 (英文) | Department of Science, Technology and Environment・Associate Professor・Pham Lieu Khac | | | | | | |
| ④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | | | | | | | |
| 和文：日越大学 英文：Vietnam-Japan University, Vietnam National University, Hanoi 和文：ハノイ土木大学 英文：Hanoi University of Civil Engineering | | | | | | | |
| ⑤参加研究者数内訳(重複 カウントしないこと) | 教授級 以上 | 助教・准教授等 | ポスドク等若手 研究者 | 大学院生 | その他 | 合計 | 第三国所属の研究者 (内数) |
| 拠点機関 | 1 | 6 | 0 | 0 | 0 | 7 | |
| 協力機関・協力研究者 | 2 | 6 | 0 | 0 | 0 | 8 | |
| 合計 | 3 | 12 | 0 | 0 | 0 | 15 | |
| ⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。) | | | | | | | |
| 所属・職名 (専門分野) | | 研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。) | | | | | |
| 該当なし | | | | | | | |
| ⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。) | | | | | | | |
| 所属機関所在国・所属・職 | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | | | 研究交流に不可欠な理由 | | |
| 該当なし | | | | | | | |

| ⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎ と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：- | | ⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。) | | ※参考： 日本側研究交流経費 | | | |
|--|---|---|-------------|-------------------|-------------------------|------------|---------------------------|
| | | 支援機関等名 | ファンド・プログラム名 | 日本円換算額 (単位：千円) | 換算レート日 (例:2020/9/12) | 相手国 通貨名 | 換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額) |
| A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること | | | | | | | |
| (1)日本側研究者の相手国内滞在費 | × | 該当なし | | | | | |
| (2)相手国側研究者の国際航空運賃 | × | 該当なし | | | | | |
| (3)相手国側研究者の日本国内滞在費 | × | 該当なし | | | | | |
| (4)相手国側研究者の相手国内旅費 | × | 該当なし | | | | | |
| (5)相手国側研究者の研究経費 | × | 該当なし | | | | | |
| (6)相手国開催のセミナー開催経費 | × | 該当なし | | | | | |
| (7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと) | × | 合計 | | 0 | | | |

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

| | | | | | | | |
|--|---|---------------|--------------------------------------|------|-------------|----|----------------|
| 事業の型 B 型 | | | | | | | |
| ①相手国名 (和文) | インドネシア | | | | | | |
| ②拠点機関名 (和文および英文) | | | | | | | |
| 和文: ウダヤナ大学 英文: Udayana University | | | | | | | |
| ③コーディネーター所属 局・職名・氏名 (英文) | Center for Remote Sensing and Ocean Sciences · Associate Professor · Takahiro Osawa | | | | | | |
| ④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | | | | | | | |
| 和文: ボゴール農科大学 英文: Bogor Agricultural University | | | | | | | |
| 和文: パジャジャラン大学 英文: Padjadjaran University | | | | | | | |
| ⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと) | 教授級以上 | 助教・准教授等 | ポスドク等若手研究者 | 大学院生 | その他 | 合計 | 第三国所属の研究者 (内数) |
| 拠点機関 | 2 | 6 | 0 | 0 | 0 | 8 | |
| 協力機関・協力研究者 | 3 | 7 | 0 | 1 | 0 | 11 | |
| 合計 | 5 | 13 | 0 | 1 | 0 | 19 | |
| ⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。) | | | | | | | |
| 所属・職名 (専門分野) | | | 研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。) | | | | |
| 該当なし | | | | | | | |
| ⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。) | | | | | | | |
| 所属機関所在国・所属・職 | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | | | 研究交流に不可欠な理由 | | |
| 該当なし | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|-------------|--------------------|--------------------------|--------|-----------------------|-------------------|--|------------|
| ⑧相手国側の経費負担 負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし: × 当該年度実施なし: - | ⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。) | | | | | | ※参考: 日本側研究交流経費 | | ¥6,400,000 |
| | 支援機関等名 | ファンド・プログラム名 | 日本円換算額 (単位: 千円) | 換算レート日 (例: 2020/9/12) | 相手国通貨名 | 換算レート (外貨1単位に相当する円貨額) | | | |
| A型のみ: パターン種別 パターン1か2を記入すること | | | | | | | | | |
| (1)日本側研究者の相手国内滞在費 | × | 該当なし | | | | | | | |
| (2)相手国側研究者の国際航空運賃 | × | 該当なし | | | | | | | |
| (3)相手国側研究者の日本国内滞在費 | × | 該当なし | | | | | | | |
| (4)相手国側研究者の相手国内旅費 | × | 該当なし | | | | | | | |
| (5)相手国側研究者の研究経費 | × | 該当なし | | | | | | | |
| (6)相手国開催のセミナー開催経費 | × | 該当なし | | | | | | | |
| (7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと) | × | | 合計 | 0 | | | | | |

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

| | | | | | | | |
|---|---|--------------------------------------|----------------|------|-------------|----|----------------|
| 事業の型 B 型 | | | | | | | |
| ①相手国名 (和文) | フィリピン | | | | | | |
| ②拠点機関名 (和文および英文) | | | | | | | |
| 和文：デラサール大学 英文：De La Salle University | | | | | | | |
| ③コーディネーター所 属部局・職名・氏名 (英文) | Faculty of Science・Professor・Amalin Divina Medina | | | | | | |
| ④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) | | | | | | | |
| 和文：フィリピン大学ロスバニョス校 英文：University of the Philippines Los Baños 和文：バタンガス州立大学 英文：Batangas State University | | | | | | | |
| ⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと) | 教授級 以上 | 助教・准教授等 | ポスドク等若手 研究者 | 大学院生 | その他 | 合計 | 第三国所属の研究者 (内数) |
| 拠点機関 | 3 | 5 | 1 | 3 | | 12 | |
| 協力機関・協力研究者 | 2 | 9 | 1 | 1 | 1 | 14 | |
| 合計 | 5 | 14 | 2 | 4 | 1 | 26 | |
| ⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。) | | | | | | | |
| 所属・職名 (専門分野) | | 研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。) | | | | | |
| ACT Malaria・職員 (疫学) | | 該当なし | | | | | |
| ⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。) | | | | | | | |
| 所属機関所在国・所属・職 | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | | | 研究交流に不可欠な理由 | | |
| 該当なし | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--|---|---|--|-------------------|-------------------------|---------------------------------|---------------------------|
| ⑧相手国側の経費負担 負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと) 負担なし：× 当該年度実施なし：- | | ⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。) | | | | ※参考： 日本側研究交流経費 ¥6,400,000 | |
| | | 支援機関等名 | ファンド・プログラム名 | 日本円換算額 (単位：千円) | 換算レート日 (例:2020/9/12) | 相手国 通貨名 | 換算レート (外貨1単位に 相当する円貨額) |
| A型のみ:パターン種別 パターン1か2を記入すること | | | | | | | |
| (1)日本側研究者の相手国内滞在費 | × | | | | | | |
| (2)相手国側研究者の国際航空運賃 | × | | | | | | |
| (3)相手国側研究者の日本国内滞在費 | × | | | | | | |
| (4)相手国側研究者の相手国内旅費 | × | | | | | | |
| (5)相手国側研究者の研究経費 | ◎ | Department of Science and Technology (DOST) | Philippine Council for Agriculture, Aquatic, and Natural Resources Research and Development | 10,639 | 2020/2/1 | フィリピン ペソ | 2.13 |
| (6)相手国開催のセミナー開催経費 | × | | | | | | |
| (7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと) | × | 合計 | | 10,639 | | | |

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。